

かみいち総合病院

8月13日、富山大学附属病院 林篤志院長、東京医科歯科大学 川渕孝一教授、かみいち総合病院 浦風雅春院長、上市町区長協議会 村井栄悦会長、上市町社会福祉協議会 奥井健一会長の5人の委員で構成される「改革プラン評価委員会」が、かみいち総合病院で開催され、令和2年度の実績を点検・評価しました。

### 【評価委員の評価・指摘事項】

- ・令和2年度は、病院内外の多くの方々の努力によって病院経理が念願の単年度黒字にできたことは、大変よかったです。また、今後の病院利用者の利便性や利用者増加の面からも、駐車場の拡張整備ができたことは大変よかったです。更に、乳がんサテライトセンターは外科医、外来での白内障の手術は眼科医がそれぞれ積極的な病院経営に関わっている。
  - ・外来化学療法センターの設置や外来での白内障手術を本格的に展開することによる患者満足度向上、ひいては名実ともに気軽にかかる「町の病院」につながることが望まれる。地域医療構想について今後の動向が注目される。

乳がんサテライトセンターと地域医療構想について今後の動向が注目される。

  - ・高齢者が多い地域では、肺炎・心不全・認知症・骨折・眼疾患の需要が多くなるはず。これらに対応できるようにすることも必要。
  - ・在宅医療は年間1,000件を超しており、充分であると思うが、これからは増え在宅医療が多くなると思われる所以、計画的にやっていけば良いと思う。
  - ・今後、大幅に増加すると思われる認知症に、3名の精神科医師がどのように対応されるかをしっかり検討してほしい。

### ○数値目標達成に向けての具体的な取組

## 1 収入増加・確保対策（主なもの）

内 容	令和2年度			備 考
	計画値	実績値	達成状況	
入院外来収益の增收	34億1,391万円	30億6,711万円	B	新型コロナウイルス感染症の影響による患者の減少に伴う減収
病棟薬剤師配置による增收	1,400万円	1,552万円	A	病棟薬剤業務実施加算の係数が上がったことから目標値を達成
管理栄養士配置による增收	300万円	255万円	B	患者数減による影響
リハビリテーションの充実	1億8,650万円	1億6,003万円	B	地域包括ケア病棟の入院料に包括されたため減
健診・ドック利用者の拡大 (年間健診センター利用額)	8,000万円	8,259万円	A	土曜レディース健診、 営業活動の効果による増
未収金の徴収強化	200万円	167万円	B	徴収専門員等による徴収強化、法律事務所に回収委託

## 2 経費削減・抑制対策（主なもの）

内 容	令和2年度			備考
	計画値	実績値	達成状況	
SPD・共同購入による経費節減	平成29年度比 △747万円	平成29年度比 △1,865万円	A	SPD導入、共同購入の推進
時間外勤務手当の抑制	対前年度比 △177万円	△85万円	B	前年度改善したが、計画値を達成できなかった
院外処方の発行率向上	90%以上	88.2%	B	神経精神科と透析センターで発行率が低い
業務委託の内容および金額の見直し	対前年度比 △200万円	167万円 の増	B	給食委託業者の変更により減 検体検査（PCR検査）の増

今後においても、地域における必要な医療提供体制および、より一層の経営基盤の強化を図るため、入院・外来収益の確保紹介率および逆紹介率の向上、医学管理等を積極的に算定に繋げる収入増加対策、診療材料の共同購入の推進などに重点的に取り組んでいきます。

町民の3人に1人が高齢者となつた上市町では、高まる医療・介護サービスの需要と更なる地域医療の推進を図るために保健・福祉分野と連携した包括医療・ケアの強化、へき地診療並びに訪問診療および訪問看護に代表される在宅医療の機能を強化することにより、在宅医療までの切れ目のない地域包括ケアシステムの構築に取り組んでいます。令和2年11月に南館3階病棟を地域包括ケア病棟としたことにより急性期での治療の終了後に自宅への帰宅や施設などへ入所することに不安のある患者に対し、しばらくの間、入院療養を継続しながら在宅復帰に向けた体制を整えることができるようになりました。

そのほか、外来化学療法センターの設置や外来での白内障手術の実施により、外来患者のニーズに合わせた対応を行っています。

新型コロナウイルス感染症関連では、入院患者受け入れのための病室確保と当該患者を受け入れる場合に稼働させる感染対策チーム編成及び不急手術の延期のための入院患者の制限を行いました。

## 財務に係る数値目標

主な数値目標	令和2年度		
	計画値	実績値	達成状況
経常収支比率	100.1%	102.9%	A
職員給与比率	62.2%	60.5%	A
病床利用率（一般病棟）	83.4%	74.3%	B
病床利用率（回復期病棟）	80.0%	60.2%	C
病床利用率（精神科病棟）	74.1%	57.1%	C
医業収支比率	92.6%	86.4%	B
不良債務比率	0%	-7.9%	A
患者1人1日当たり診療収入（入院）	34,721円	36,864円	A
患者1人1日当たり診療収入（外来）	10,479円	12,246円	A
医業収益対薬剤費	10.8%	8.6%	A
医業収益対診療材料費	5.6%	6.1%	B
医業収益対委託費	11.8%	13.1%	B

狀況報告

- ・経常収支比率は、令和元年度と比較して約8.3%増、医業収支比率は約1.4%増となった。
  - ・収益の収支は、1億1,143万円の純利益を計上した。
  - ・病床利用率は、1年を通すと回復期、精神科病棟で目標値を大きく下回った。新型コロナウィルス感染症対策として病床を確保したことや、看護師確保のため病床制限を行ったことから、計画値を達成できなかった。
  - ・患者1人1日当たり診療収入は、計画値より入院で2,143円、外来では1,767円上回った。特に入院では地域包括ケア病棟を開設したことや全身麻酔の手術件数の増により、令和元年度と比較して1人当たり2,636円上がっている。
  - ・薬剤費は、難病患者の点滴注射回数の減で、計画値を上回った。
  - ・後発医薬品への切り替えは目標値を達成しているので今後、維持が重要である。

## 医療機能に係る数値目標

主な数値目標	令和2年度		
	計画値	実績値	達成状況
1日平均患者数（入院）	156.5人	132.4人	B
1日平均患者数（外来）	493.0人	381.0人	C
紹介率	29.0%	30.0%	A
分娩件数	120件	110件	B
外来患者満足度	85.0%	85.7%	A
入院患者満足度	85.0%	92.3%	A
在宅訪問診療回数	730回	974回	A
在宅復帰率（回復期病棟）	80%	89.7%	A
救急車受入件数	550件	507件	B
手術件数	800件	706件	B
認定看護師数	12人	11人	B

状况報告

- ・令和2年度は入院患者数、外来患者数とともに減少し、特に外来患者数については、新型コロナウイルス感染症の影響により前年度から減少している。
  - ・他病院からの紹介率を高めることは、入院患者数の増加につながるため、地域医療連携室を中心として紹介患者の確保を図る必要がある。
  - ・産科の分娩件数については、前年度に対して3件の増であった。出産可能人口が減少する中で分娩件数を増やすためには、町と連携した施策が必要である。産婦人科医師は非常勤医師を含めて2名体制を確保している。

- 【達成状況】
- A：目標以上
- B：一定の実績  
(目標の8割以上)
- C：実績不足